



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達の良い気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

4～11月までの相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	その他	計
件数	154件	369件	39件	8件	18件	588件

(その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼)



専門アドバイザーの仕事を紹介します。

学校や園にはいろいろなお子さんが在籍しています。1クラス30人ほどの通常学級の中にも、気になるお子さんが数名見られることもよくあります。

発達障害の疑いのあるお子さんだけでなく、家庭に問題を抱えているために情緒が安定しないお子さんや、学力が低位なために授業内容が理解できなくて学習に取り組めないお子さんもいます。

4年生の女子で、行動が遅い友達に「早くしろよ」と暴言を吐いたり、掃除中に教師から注意を受けると、蹴ったりするなどの行動を起こす児童(A児)がいました。家庭は複雑で保護者の愛情には飢えているとの話を聞きました。

担任(女性)は非常に熱心な先生で、授業の説明がわかりやすく、てきばきと指示を出す上に、支援の必要な児童には個別に声をかけるなどの配慮をしていました。

授業中のA児は学習活動は指示通りに行えるものの、友達の発言の言葉尻をとらえて歌にしたり、途中で鉛筆を削ったりと落ち着きのない様子がみられました。イスの上に正座をして座っていることから、感覚にも過敏さがあることが分かります。その中で多く見られる行動としては、「先生、～でいいんですか?」「先生、～って何ですか?」と1つ1つ確認する様子が見られ、教師に注目をされたいという意思表示が強く伝わってきました。

そこで、担任は本児と毎日放課後に、反省会をしました。手を握ったまま、今日の反省をします。「お掃除は真面目にできましたか」「授業中は先生の話聞いていましたか」など、数個の質問をし、子どもの返事によって、握った手を緩めたり、強く握ったりして、振り返りをしました。

名目上は反省会です。でも、A児にとっては先生と1対1で会話をする大事な機会になりました。反省会をしてから、A児は素直になり、指示を聞けるようになってきました。

教師に愛情を求めているお子さんは実は結構見かけます。子どもの問題行動は実は教師からの注目を得るための行動ではないか、そんな視点をもって指導にあたることも大切ですね。

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。

お待ちしております。



群馬県立しrogane特別支援学校
専門アドバイザー 尾岸 純子
電話 027-268-6111
FAX 027-268-6113
mail shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp
(アドレスを変更しました)